

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所 の特徴	地域との繋がりを大切に、概ね3km以内の方より利用して頂いております。 その方の生活パターンや習慣・家族状況に応じ柔軟なサービス提供を行う事で、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていただける事をお手伝いしています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護千手	管理者	廣川 丈人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	2人	1人	1人	0人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価項目の担当制を更新し項目理解を深める。 特にタブレットを活用し、「1初期支援」、「2～したいの実現」、「3日常生活の支援」についての理解を深められるように取り組む。	項目1については初回情報を出る限り入力し共有するように努めることが出来た。 項目2、3についてもタブレットの入力方法について検討し、小規模事業所全体でのマニュアル作成に向けて動いている。日々のご利用者の声を聞き、記録内に色分けして職員全体で共有できるように記入方法を統一化した。	運営推進会議の中でタブレットをよく活用されていることをお聞きし、職員の皆さんが同じ改善目標に向けて取り組まれていると思います。 ・地域との繋がりを大切に、サービスの質の向上に努力されていると思います。個人的には何の不安もなく日々利用させていただいています。事業所としての力量が高いからこそだと感じています。	事業所自己評価項目の担当制を更新し項目理解を深める。 担当を中心に事業所自己評価9項目のうち特に「4. 地域での暮らしの支援」、「5. 多機能性のある柔軟な支援」、「6. 連携・協働」についての理解を深められるように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	ご利用者と一緒に季節を感じる設えを作成し掲示していく。 外部の方にも情報や取り組みが伝わるような設えや立て看板の設置を継続する。	フロア内の装飾について、得意な職員が中心になり、季節に応じて装飾の作成に取り組んだ。 春には「こいのぼり」、夏には「花火」、秋には「ぶどう」、冬は「クリスマスツリー」を作成。冬は電飾も付け、目にも楽しんでいただけるよう工夫を凝らし、取り組んでいる。 立て看板もサポートセンター内で順番に作成を行い、介護保険の情報だけでなく、目にもめてもらえるような内容を意識し作成している。 正面玄関入ってすぐの棚には季節の花を飾り、花の名前や花言葉に記載した紙を用意し、一つの作品として見えるように飾り方を考えた。 入り口は顔でもあるので今後も設えについてセンター全体で検討する。	・玄関の設えは工夫されていて毎度感じています。ポスターは完成度が高く素敵らしいと思います。 ・季節が感じられるよう工夫して掲示してあると思います。 ・認知症のご利用者が「あそこ(千手)へ行きたい」と言っておられ、居心地が良いのだろうと思えました。 ・今年度は地域交流スペース出入口を利用することがほとんどであったので玄関正面展示物を見ることが出来ず残念でしたが、地域の方と一緒に参加するときは交流スペース側の出入口の方が気軽に施設内に入れる気がしました。 ・地域住民がふらっと立ち寄れるような仕組みがされていて、とても入りやすいです。	フロア、正面玄関の設え、立て看板の作成の継続を行う。 季節感、見た目、介護の情報だけでなく、災害時にも活用できるような装飾、設えの作成を行う。
C. 事業所と地域のかかわり	全職員が参加できるように年10回以上の開催を継続する。 定期的にアンケートを取り、開催内容や方向性の確認を行い、理解の深まる会を提供する。	今年度は「こよし会」、「民児協ミニ講座」、「お茶飲み会」を合計19回開催計画を立て、予定通りに実施できている。 新たに保育園で「認知症キッズサポーター養成講座」を予定し、3か所での開催を調整することが出来た。 地域における幅広い世代への福祉のアプローチを行うことが出来た。 次年度の開催に向けて年度末にはアンケートを予定し、地域のニーズを確認し、地域啓発活動がより良いものになるように継続していきたい。	・地域の方が直接介護の相談に行かれるなど、地域の方が頼りにしている事務所だと思います。 ・民児協ミニ講座ではそれぞれの分野の方が講話をして下さり新しい情報等を得られ参考になります。 また具体的な事例を通して介護保険等を教えてもらえるのは勉強になります。 ・運営推進会議でお邪魔すると、職員の皆様明るく出迎えてくださるので助かっています。今年度は地域福祉懇談会にも出席していただき、地域の方にも認知が進んだのではないかと感じる。 ・様々な行事を通して事業所から積極的に地域と関わりを持っていただき感謝です。	多世代に渡る地域啓発活動を年間15回以上の開催を継続する。 地域交流スペースの活用方法を地域に向けて案内を出し、地域啓発活動外の関わりの方を設けられるよう働きかけを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	千手地区(町内、コミュニティセンター)で開催される行事にご利用者と参加する。 近隣の散歩、ドライブを行い、ご利用者の楽しい時間を作っていく。	千手地区のお祭りにはサポートセンターをお神輿の休憩所として活用していただいている。 今後は担ぎ手としても参加できるように調整を行いたい。 次年度は千手コミュニティセンターで開催された「スキット千手」にも相談窓口としても参加できるように、千手コミュニティセンター職員の皆さんへ参加させていただけるように声をかけていきたい。 日々の支援の中でも天候が良いときには車いすを使用し、地域を散歩している。 中には近くのお寺にお墓があり、月命日にお参りに向かうことや、リハビリを兼ねた散歩も実施している。 時間を見て花見などのドライブも実施できた。 普段、自宅とセンターの行き来だけにどまる方も多いため、少しでも季節感や長閑な街並みを感じていただけるように調整を行っていく。	・運営推進会議の中でも、利用者さんの生活歴や好きなこと、得意なことを聞き取る努力をされている様子が伺えました。意思疎通が難しい利用者さんもあるかと思いますが、引き続き取り組んでいきたいです。 ・地域で心配な高齢者の情報提供をしていただいたこともあり、小規模多機能のご利用者以外の地域の方にも目を向けていただけていると感じます。 ・担当地区の高齢者世帯の方からサポートセンターの利用を検討したいとの申し出があり連絡したところ、迅速な対応で一緒に訪問してもらい助かりました。 ・運営推進会議では、ご利用者やその家族を交えて会議をしているので、「生の声」が聞けるのでいい取り組みだと感じています。 また、こよし会だけでなく、地域の行事への参加やお茶のみ会といった地域の方が気軽に参加できるイベントも実施しているので勉強になります。	千手地区で開催される行事へのご利用者と共に参加を行う。 日々の支援の中で地域に触れる外出の実践を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議に職員も参加し、活動報告部分の紹介について参加職員より報告を行い、写真資料に加え実践している職員の声を伝える機会を持つ。	少しでも状況をお伝えできるようにサポートセンター全体で写真資料を含めた資料作りを行ってきた。 次年度は資料の事前配布を調整し、会議開催前に意見や質問の確認を行っていただき、より多くのご意見をいただける時間を取るように調整を行う。 今後も継続して介護職員の参加を調整し、現場の声を届け、意見交換をさせていただきたい。	・会議資料に添付いただいている写真をいつも楽しみにしています。 ・改善できることはすばやく対応されており、意見を丁寧にき取っていただいていると思います。 ・職員の方の出席は介護現場の生の声を聴くことができ、説得力がありますし、介護職に対する思い、熱意が伝わって元気ももらえます。ぜひ多くの方の声を聞きたいです。 ・運営推進会議で配布される資料に写真が添付されているのでとても分かりやすいです。みなさんの時間に限りがあると思いますが、事例検討があるともっと深まるのかなと感じています。	運営推進会議への介護職員の参加の調整を行い、現場の声を伝える。 資料の事前配布を行い、状況報告の時間を事例報告の場として活用する。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の方よりサポートセンターの避難訓練への参加をしていただく。 普段よりセンター内に馴染みがない方が避難支援を行う際の注意点を確認し、動きやすい方法を検討する。	地域の方より参加いただき、見慣れない環境での意見をうかがうことで、「いざ」というときに必要な環境設定、指示の出し方が見えた。 今回の垂直避難訓練では実際の装備品を使用し、計画通りに避難を勧めようとした際に効率的な動き、行動の必要性の見直しを行うことが出来た。 ただ行うだけの避難訓練ではなく、実際の状況を想定した訓練を実施し、外部の方からもしっかりと確認していただき、自分たちが見えていない部分も共有できる訓練を実施する。	・地域の方から避難訓練に参加していただく、より実践に近い訓練になると思います。 ・地域の高齢者から地震があったらサポートセンターに避難するとおっしゃっていた方もいて、地域の方が頼りにしていると感じます。 ・避難訓練の実施は資料等で拝見させていただきました。自分自身も知識不足なところがありますので、これから学ばせていただければと思っています。	運営推進会議委員ではない地域の方からの避難訓練への参加を調整し、新たな視点の確認を行う。 併せて、サポートセンター千手の災害時の使用方法の周知を行う。